



活力ある秋田 Vol. 64

今日の細やかなおもてなしと、 未来を見据えた大胆な構想と

[秋田市観光クチコミ大使]

有限会社荻津郁夫建築設計事務所 代表取締役 **荻津 郁夫 氏**

久振りにお盆に帰省し二夜連続の還暦同期会に出席、今はなき同級生や友人の母上にお線香をあげ、実家の墓参りをし、たまたま開催されていた草間弥生展に行き、あらためて見る藤田嗣治の「秋田の祭り」の迫力に圧倒され、西馬音内の盆踊りを最終日の12時まで見て締め括った夏休みでした。途中20年前に設計した雄勝町文化会館に立ち寄り、大森と角館の現場で打合せをし、自分がいかに秋田に育てられ秋田に支えられて今があるのかを実感し、その自然や歴史や文化に色濃く導かれていることを再認識した1週間でした。

春には秋田でなければ食べられない山菜があり、夏には各地で祭りが息づき、秋には豊富なきのこにきりたんぼ、酒と秘湯の楽しみの尽きない故郷です。

しかし初めて秋田を訪れようとする友人に、どこに泊まって何を食べよう楽しんでもらうのかを説明しようとする時、その選択肢の少なさに少し戸惑います。もちろん私の情報量の貧弱さ故なのですが、先日院内の温泉で一緒の湯舟にいた人たちも同じようなことを語ってくれました。観光の素材には事欠かないのだけれど隣の県に行く方がいろいろな楽しみ方を用意してくれているのだと。

重要無形民俗文化財の数は16で全国一ながら、料亭を検索すると数が少なく、料理や器、建築や庭園、装飾やもてなしの文化と歴史が凝縮されていく場所が生き続けていけない風土があるのだろうかと思ってしまう。秋田舞妓の復活を聞いて、もてなしの文化を育む雰囲気と制度を地域全体で盛り上げていってほしいと願っています。

新文化会館の構想にしても、音楽か演劇かコンベンションかと全国の自治体の流れを踏襲し、その性能や規模を争うのではなく、もてなしの文化、食文化、醸造文化、スポーツ文化などあらゆる分野を横断し今までにない文化施設構成や空間構成を考えていく方向性もあるのではないのでしょうか。

コンパクトシティというのなら、LRT（次世代型路面電車）など話題性のある新交通システムによって、拡散してしまった都市機能を結びつけてもいいかもしれないし、中央は広大なセントラルパークにして環状空隙公園都市などという今までにない発想も可能かもしれません。

先例や現在の制度に則ってばかりでは、秋田の未来は見えてこないような気がします。先の先を見た大胆な発想と構想が今こそ必要とされていると思うのです。

ただし、今日のおもてなしを細やかに組み立てることを忘れずに。秋田に降り立った時、改札を出た時のようこそそのメッセージはもっと温かく大袈裟にすべきでしょう。帰りのお土産をだけではなく、まずはよく来ていただきましたと。その気持ちが伝わればこそ、観光であれ出張であれ、訪れる人たちの顔もほころび財布の紐も緩むはず。十分にいい素材観光資源はあるのですから、自信をもってその伝え方を一人一人が工夫していく必要があると思います。そんな秋田の変わりゆく未来に少しでもお役に立てたらと考えています。



秋田市：あくら・フォー・スクエア

■略歴

1954（昭和29）年 秋田市生

秋田高校卒業まで秋田在住

京都大学工学部建築学科修士課程修了

雄勝町文化会館、箱根強羅花壇、あくら・フォー・スクエア、秋田銀行角館支店（2014.10竣工予定）など、小住宅、店舗、福祉施設、旅館、公共施設等、幅広く活動中。

HP：<http://www.o-as.co.jp>